

第82回 経営協議会 議事要録

日 時 令和4年10月27日（木） 13時30分～15時20分

場 所 大学本部棟第二会議室 及び オンライン

委 員 日比野克彦 学長【議長】、迫 昭嘉 理事・副学長（教育担当）、
清水泰博 理事・副学長（研究担当）、
大場 武 理事（総務・財務・施設担当）・事務局長、
佐野 靖 副学長（社会連携担当）、
中村政人 副学長（大学改革・渉外担当）、
赤羽真紀子 委員、高橋陽子 委員、二宮雅也 委員、御立尚資 委員、
吉本光宏 委員、岡田武史 委員

陪 席 上田良一 監事、麻生和子 理事、岡本美津子 副学長（デジタル推進担当）、
今村有策 副学長（国際連携担当）、
光井 渉 美術学部長、杉本和寛 音楽学部長、
桐山孝司 大学院映像研究科長、熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長、
黒川廣子 大学美術館長、河野文昭 演奏芸術センター長、
大森晋輔 附属図書館長、伊藤達矢 特任教授

欠 席 湯浅真奈美 委員、国谷裕子 理事【陪席】、浜田健一郎 監事【陪席】、
箭内道彦 学長特命（大学改革・ブランディング戦略担当）【陪席】

- 議事に先立ち、議長から経営協議会委員に岡田武史委員及び佐野靖委員が加わった旨の紹介があった。

議題

1. 令和4年度国立大学法人ガバナンス・コードについて
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、法人の長のリーダーシップについて一部文言を修正した上で、それ以外は原案どおり承認された。
2. 東京藝術大学学長選考・監察会議委員の選出について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 電気料金等の高騰に係る現在の状況と財源対応策について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 令和5年度概算要求の概要について
標記のことについて、大場理事から資料に基づき報告があった。
2. 令和3事業年度財務諸表の承認について
標記のことについて、大場理事から資料に基づき報告があった。
3. 第3期中期目標期間終了時における国立大学法人の積立金の処分に係る承認申請について
標記のことについて、大場理事から資料に基づき報告があった。
4. 本学の取組について

議長からから、芸術文化における本学の近況について報告があった。
引き続き、伊藤特任教授から、「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点について報告があった。

(本学の取り組み)

- ・ 2022/7/12 (藝大食楽部) 防災備蓄品を活用したメニュー提供
 - ・ 2022/7/16 音楽学部オープンキャンパスの開催
 - ・ 2022/7/29 「IoT時代の芸術における新技術研究会」の発足について
 - ・ 2022/8/8 クラウドファンディング「書院造りの正木記念館で、掛け軸と屏風の展覧会を開催したい！」
 - ・ 2022/8/12 ウクライナ及びその周辺国から日本国内に避難してきた学生に対する支援
 - ・ 2022/9/9 東京藝術大学未来創造継承センターの設立
 - ・ 2022/9/13 香川県との連携事業「瀬戸内海分校プロジェクト」
 - ・ 2022/10/14 コルベール委員会ジャパンが主催「コミテコルベール アワード 2022」展 授賞式開催「新しいエコロジーとアート」展開催
 - ・ 2022/10/17 上野マルイの「SDGs フェア」で東京藝大SDGsのパネルを展示
 - ・ 2022/10/19 株式会社小学館と包括連携協定を締結
 - ・ 2022/11/26 取手藝祭の開催について(予告)
- (要人来訪)
- ・ 2022/7/15 都倉俊一文化庁長官が本学を視察
 - ・ 2022/8/30 梁和生文部科学副大臣が大学美術館 特別展「日本美術をひも解く一皇室、美の玉手箱」を視察

(受賞等)

- ・ 2022/9/27 山村教授と修了生 和田淳監督がオタワ国際アニメーション映画祭でグランプリ受賞

※ご助言、ご提言等

◎新たな取組、今後の課題等について

議長から、活動状況について報告があり、財源対応策等について意見交換を行った。
主な意見は以下のとおり

- アートコミュニケーション共創拠点プロジェクトについて、社会全体での総力戦という言葉に賛同する。社会貢献度の高い取組については、オーストラリアではサステナビリティボンド発行等を参考にするなど、さまざまな可能性も模索してはどうか。
- 藝大の取組を進めるためには、まず、どうやって収入を増やしてくかという問題がある。他大学でも収入を増やすよう動いている。特に10兆円規模大学ファンドを検討している大学は、収入増について企業に働きかけており、藝大も遅れを取らないよう早めに体制を整える必要がある。また、社会コストを下げる取組についても積極的に社会に対して伝えた方がいい。
- 卒業生や藝大教員だった方々について活躍してもらう必要があるのではないかと。特に、藝大学長だった方については社会的にも経済的にも成功している方であり、後進の教育に尽力してもらってはどうか。
- 「電気料金等の高騰に係る現在の状況と財源対応策について資料3」にて、6億円の負担増となっているが、全体予算(約100億円)も書いた方が、その負担増のインパクトが伝わり、より現状が理解しやすいのではないかと。
- 今般、企業の寄附額は減っていても従業員の教育への経費は減っていない印象である。シニアエグゼクティブ向け、社外取締役向けの教育が日本には少ないため、ここを対象にする等、社会人の再教育に還元してはどうか。
- 藝大は「芸術で社会を変えるのだ」という強いビジョンをもち、学長自身が社会に訴えていくこと、更に芸術家を応援したいという人たちに訴えることが必要である。
- 企業は、従業員教育等の人的資源が重要視している。企業からの寄附については、教育・研修を打ち出していくことが必要ではないかと。また個人からの寄附については、例えば藝大内に老人ホームを設置する等、社会のニーズに合わせた提案をしてはどうか。